

長瀬小学校

1. 研究テーマ

「豊かな感性を持ち、自ら学び考える子をめざして」
～一人ひとりが、考え高め合う子を育てるために～

2. 研究内容

はじめに

本校は、本年度入学生はなく、2・3年（複式学級）、4・5年（複式学級）、6年



（単式学級）、「障害」児学級の4学級編成である。

国語科や算数科などでは、できる限り単式の時間を生み出す工夫と努力をしているが、教科によっては2～3学年合同で授業を行っている。

児童は、素直で純朴であり、物事にまじめな姿勢で臨むことができる。保育所からほぼ固定化されているなかまは、互いによく知っ

ていて行事などにおいても、全校が協力し合って取り組むことができる。しかし、その反面山間部という環境にあるため、入ってくる情報量が少なく、多様な意見や考えに触れる機会も限られている。従って、練りあい磨きあうという活動を持ちにくく、自ら考え行動するという点においては消極的な面がみられる。

そこで本年度は、恵まれた自然環境を生かし、「生活科・総合的な学習の時間」の実践（米作りを中心に、炭焼き体験・茶碗作り・長瀬の自然調べ等）を通して、一人ひとりの生きる力、自主性・積極性・協調性・創造力を育てようと取り組んできた。なかまと共に協調し、他を思いやる心・感動する心など「豊かな人間性」は、家庭や学校などでの人と人との交わりや、自然や社会の現実に触れる体験を通して培われると考えたからである。

さらに、一人ひとりが自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動できるための力（基礎・基本）の大切さを考え、授業研究の取り組みも進めた。

3. 具体的な実践

（1）生活科・総合的な学習の時間の取り組み

＜2年生＞

【1学期】

- ・ 田植え体験
- ・ 花や野菜の世話と観察
- ・ 学校周辺の草花の観察（名前調べ・しおりづくり）
- ・ 田んぼや溝に住む生き物の観察

【2学期】

・「水田の中にいる昆虫の世界」（出前授業）での体験学習

- ・ 稲刈り体験
- ・ 秋の木々や草花・生き物の観察（木の葉・木の実拾い）
- ・ かやの実のクッキー作り
- ・ 冬を見つけよう



【3学期】

- ・ 2学期のまとめ

学校周辺のマップづくり

かるたづくり

1年間を通じて、子どもたちに興味のある“自然観察”を中心に取り組んだ。校外での学習の時間が多かったが、それぞれがめあてを持ち嬉々として取り組んでいた。観察したことや発見したことはその都度、絵や文でカードにまとめ掲示した。

草花の押し花や紅葉した葉っぱを使つての“しおりづくり”、拾ってきたかやの実を使つて“クッキーづくり”にも挑戦した。

3学期は、学校周辺の“マップづくり”や“かるたづくり”にとりくみ、1年間の総まとめをした。

田植え・稲刈りなども含め、いろいろな体験学習をする中で発見や再認識をしながら、生き生き活動することができた。

<3・4年生>

【1学期】

- ・ 米作りについての個人研究（その後発表会）
- ・ 田植え体験



- ・ 茶わんづくり調べ

- ・ 茶わんづくり

【2学期】

- ・ 茶わんの色つけ・ゆうやくつけ体験
- ・ 稲刈りまでの仕事調べ
- ・ 「水田の中にいる昆虫の世界」（出前授業）での体験学習

- ・ 稲刈り体験

- ・ 炊飯体験（かぐや姫ごはん・自分のお茶わんで食べる）

- ・ カレンダー作り

【3学期】

- ・ 今までの活動のふりかえり（流れ図の作成）
- ・ 米を使った料理調べ（プレゼンテーション）
- ・ チャーハン作り

「自分たちで作り出そう～ひとつしかないすばらしさ～」をテーマに、3・4年生は「自分たちでお茶わんを作って、それでご飯を食べたい。」という目的をもって、一年間取り組んできた。

米作りについては、自分の家でやっても実際に関わったことがなく、ひとつひとつの活動が新鮮だったようだ。全校で行ったこともあり、高学年に頼ってしまう場面も観られたが、お家の人に聞き取りをしたり、本やインターネットで調べたりすることができた。調べたことはその都度発表会を持ち、お互いに交流し合った。何度も発表を重ねるうちに、自分の思ってることや調べたことをうまく人に伝えられるようになってきた。

お茶わん作りでは、ひとつしかない作品を作り出すという喜びを味わっていたように思う。ただ、お茶わん作りを調べるだけ、教えてもらうだけという児童もいた。わからないこと、不思議なことを工房の方にもっと積極的に質問ができたらと思った。

< 5・6年生 >

【1学期】

- ・ 田植え・草取り体験
- ・ 米作りについての聞き取り（田植えまでの仕事の手順、肥料、消毒など）
- ・ 農薬を使った米作り、使わない米作りについて調べる。
- ・ 米作りについてさらに知りたいことを調べ、まとめる。
- ・ 調べたことを発表し合う。



【2学期】

- ・ 稲刈りまでの仕事、その後の仕事について調べる。
- ・ 「水田の中にいる昆虫の世界」（出前授業）での体験学習
- ・ 稲刈り体験
- ・ 脱穀・もみすりの見学
- ・ 炊飯体験（かぐや姫ごはん・おにぎり作り）
- ・ 米作りについてのまとめ
- ・ 炭についての調べ学習
- ・ 調べたことを発表し合う。

【3学期】

- ・たんくろ窯や炭作りについての質問をまとめる。
- ・たんくろ窯での炭焼き体験
- ・体験したことをまとめる。



5・6年生は「見つけよう！宝 ぼくらの長瀬 再発見」をテーマに1年間取り組んできた。

米作りの学習をするには恵まれた環境にいるにもかかわらず、米作りにかかわったことのある子は少なく、これまでは関心をもって見ていなかった子どもたちもいたが、家の人から話を聞いたり、自分で田植え・草取り・

稲刈りなどを体験することによって、興味を持って学習することができた。

また、機械化されていない頃の作業の大変さも身をもって理解することができたようだ。

米作りや炭焼きなどの活動では、地域のお年寄りの方々が快く協力してくださり、教師の知らないこともいろいろと教えてくださり、交流をもつことができた。また、出前授業では、専門の方を講師に迎え、わかりやすく学ぶことができた。

4. 成果と課題

<成果>

- ・地域の人やゲストティチャーとの出会いを多く持つことにより、積極的に学ぶ子どもの姿が見られるようになってきた。
- ・地域の自然を教材として学習することで、地域のよさに目を向けるようになった。
- ・総合的な学習に取り組むことによって、他の学習にも自主的な面が見られるようになってきた。
- ・学習したことを積極的に交流することができるようになった。(他学年・家族)
- ・インターネットなどで調べたことを実際に体験してみて確かめたり、また、その体験から出てきた疑問をさらに調べたりして学習を広げていくことができた。



<課題>

- ・体験して学んだことを次の活動にどうつなげていくか。同時に指導者の支援のあり方も考えていかなければならない。